

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																								
専門学校 トヨタ神戸自動車大学校	平成4年9月16日	上田 博之	〒651-2102 神戸市西区学園東町4丁目1番地 (電話) 078-796-2121																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																								
学校法人 トヨタ神戸整備学園	平成4年9月16日	理事長 宮本 眞志	〒651-2102 神戸市西区学園東町4丁目1番地 (電話) 078-796-2121																								
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																							
工業	工業専門課程	自動車整備科	平成20年2月26日 文部科学省告示 第12号	-																							
学科の目的	21世紀の業界を背負って立つ人材の育成 業界の中核そして将来は管理職、経営者の輩出																										
認定年月日	平成27年2月17日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
2年	昼間	2160	700	240	1220	0	0																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																						
280人	212人	42人	6人	42人	48人																						
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 科目毎に修得試験を行い、60点以上を合格とする また評定基準は下記のとおりする 優 評価:100～80点 良 評価:79～70点 可 評価:69～60点 不可 評価:履修試験不合格																							
長期休み	■学年始:4月1日～4月9日 ■G W:4月25日～5月6日 ■夏 季:7月19日～8月25日 ■冬 季:12月21日～1月7日 ■学年末:3月14日～3月31日		卒業・進級条件	各学年毎に、定められた全科目の修得試験に合格しており、各学年における補講を含めない正規授業への出席率は、80%以上であること																							
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個別面談、電話・メール連絡 自宅訪問、保護者連携		課外活動	■課外活動の種類 レースメカニック体験、レース観戦 学園祭実行委員 等 ■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和5年度卒業生に関する令和6年5月1日時点の情報)																							
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和5年度卒業生) 自動車販売会社、自動車整備工場、自動車メーカー、評価会社 ■就職指導内容 挨拶・身だしなみ、職業理解講座、会社訪問、個別面談、履歴書添削、面接指導 ■卒業者数 : 110 人 ■就職希望者数 : 97 人 ■就職者数 : 97 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 88.2 % ■その他 ・進学: 13人 ・就職意志なし: 0人 (令和5年度卒業生に関する令和6年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>二級ガソリン自動車整備士</td> <td>②</td> <td>110人</td> <td>110人</td> </tr> <tr> <td>二級ゼーゼル自動車整備士</td> <td>②</td> <td>110人</td> <td>110人</td> </tr> <tr> <td>従来自動車等の整備業務に係る特別教育</td> <td>③</td> <td>110人</td> <td>110人</td> </tr> <tr> <td>トヨタサービス技術検定3級</td> <td>③</td> <td>110人</td> <td>110人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	二級ガソリン自動車整備士	②	110人	110人	二級ゼーゼル自動車整備士	②	110人	110人	従来自動車等の整備業務に係る特別教育	③	110人	110人	トヨタサービス技術検定3級	③	110人	110人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																								
二級ガソリン自動車整備士	②	110人	110人																								
二級ゼーゼル自動車整備士	②	110人	110人																								
従来自動車等の整備業務に係る特別教育	③	110人	110人																								
トヨタサービス技術検定3級	③	110人	110人																								
中途退学の現状	■中途退学者 17名 ■中退率 7.7 % 令和5年4月1日時点において、在学者220名(令和5年4月1日入学者を含む) 令和6年3月31日時点において、在学者203名(令和6年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 学業不振、進路変更、体調不良、経済的理由等 ■中退防止・中退者支援のための取組 学業不振者への個別指導、担任制、保護者連絡及び連携、学生相談室(カウンセラー)																										
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 指定校特別寮費支援制度(寮費減免12万円×2年間) ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 [令和5年度実績2名] ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																										
当該学科のホームページURL	https://www.toyota-kobe.ac.jp/education/general/																										

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係			
(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針			
自動車整備業界に関し知見を有する団体(兵庫県自動車整備振興会等)、及び主な就職先であるトヨタ販売会社の役職員を含む「教育課程編成委員会」を設置して①就職先企業等において求められる人材像と専門性の動向②国または地域の産業振興の方向性③新技術の導入・普及に伴い新たに必要となる実務に関する知識、技術、技能④その他教育課程に関する事項を十分に把握、分析し、企業等の委員の意見を踏まえて教育課程(授業科目、授業内容、方法)を編成し、実践的かつ専門的な職業教育の質の向上を図る。			
(2)教育課程編成委員会等の位置付け ※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記			
1. この委員会は、自動車整備科の授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を審議し、次年度以降の教育課程編成案を作成する。 2. 前項において、まず企業等の委員からの意見を求め、学校側委員との意見交換を経て十分に相互理解を図るものとする。 3. 自動車整備科の教育課程編成案の作成においては、「業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員」または「専攻分野に関する学会や学術機関等の有識者」から1名以上、「実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員」から1名以上選任した委員の意見を踏まえるものとする。 4. 次年度の教育課程編成案の最終案は、学校側委員がとりまとめ校長の決裁を受けるものとする。			
(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿			
令和6年4月1日現在			
名 前	所 属	任 期	種 別
井場元 彰久	一般社団法人 兵庫県自動車整備振興会	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	①
金井 隆行	兵庫トヨタ自動車株式会社	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	③
藤田 智文	神戸トヨペット株式会社	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	③
藤原 輝美	ネットトヨタ兵庫株式会社	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	③
山本 剛	ネットトヨタ神戸株式会社	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	③
上田 博之	専門学校トヨタ神戸自動車大学校	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	
杉原 徹	専門学校トヨタ神戸自動車大学校	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	
谷川 嘉夫	専門学校トヨタ神戸自動車大学校	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	
長澤 哲也	専門学校トヨタ神戸自動車大学校	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	
満田 克昭	専門学校トヨタ神戸自動車大学校	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	
為則 宏樹	専門学校トヨタ神戸自動車大学校	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	
秀嶋 孝嘉祐	専門学校トヨタ神戸自動車大学校	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	
※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。 (当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合には、種別の欄は空欄で構いません。)			
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)			
②学会や学術機関等の有識者			
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員			
(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期 (年間の開催数及び開催時期) 年3回(6月、9月、1月)			
(開催日時(実績)) 第1回 令和5年6月29日 13:00～15:00 第2回 令和5年10月4日 13:00～15:00 第3回 令和6年1月31日 13:00～15:00			

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

外部委員からの意見を踏まえ、以下の事項について、令和6年度に取り組む。(令和5年度第3回議事録参照)

- ①【現場で必要となる技術・技能に関して】「車や工具の取扱に慣れる」というご意見を受けて、「適切な工具選択にかかわる作業の機会を増やす」「自ら工具選択を考えさせる」等、教育内容の見直しを行う。
- ②【現場で必要となる技術・技能に関して】「安全作業を実践できかつ理解している」というご意見を受けて、「リフト使用時の車両重心の確認」「リフトの事故事例紹介」「ヒヤリハット事例紹介」を授業に盛り込む。
- ③【現場で必要となる技術・技能に関して】「外部診断機(GTS+)の取扱に慣れる」というご意見を受けて、新たにGTS+を12台導入し取扱の機会を増やす。
- ④【新技術に関して】「新技術を体験できるような実車体験走行」というご意見を受けて、学校全体として走行体験計画を策定、BEV、FCEVの試乗体験やHEV不具合発生時の走行体験を授業に盛り込む。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

2年次に各学生の就職内定先を実習先として、学校で修得した知識・技術・技能や顧客対応を実践。その中で社会人意識や職業意識の高揚に取り組む。

【目的】

- ①学校で修得した知識・技術・技能や顧客対応を実践し、学校の授業と実際の現場との関連・違いを身をもって体験すること
- ②社会人意識及び職業意識の高揚を図ること

【概要】

主に洗車、オイル交換、定期点検の一部などの実作業を体験することで、サービス業務全般の流れの理解を行う

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

事前にインターンシップ実施要領書を受け入れ企業に提出、担当者と確認を行う。

インターンシップ期間中は定期的に企業担当者と連絡を取り、進捗確認を行う。

期間中、学生は日報を提出、企業から今後どのように努力・成長してほしいかご教授いただき、卒業までの課題・目標とする企業は「チェックシート」にて研修学生の学修成果を評価し、学校にフィードバックする。学校はこの学修成果評価をもとに成績評価を行い、科目修得を認定する。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
インターンシップ	定期点検作業、多頻度作業、お客様対応業務などの実務を経験する。	兵庫トヨタ自動車株式会社、神戸トヨペット株式会社、トヨタカローラ神戸株式会社、トヨタカローラ姫路株式会社、ネットトヨタ兵庫株式会社、ネットトヨタ神戸株式会社、ネットトヨタゾナ神戸株式会社、大阪トヨタ自動車株式会社、大阪トヨペット株式会社、トヨタモビリティ新大阪、トヨタ南海グループ、トヨタカローラ大阪株式会社、京都トヨペット株式会社、株式会社滋賀トヨタ、トヨタカローラ滋賀株式会社、奈良トヨタ株式会社、和歌山トヨペット株式会社、岡山トヨペット株式会社、鳥取トヨペット株式会社、トヨタカローラ広島株式会社、島根トヨタ自動車株式会社、トヨタカローラ徳島株式会社、香川トヨタ自動車株式会社、トヨタカローラ香川株式会社、ネットトヨタ香川株式会社、愛媛トヨタ自動車株式会社、愛媛トヨペット株式会社、トヨタカローラ愛媛株式会社、トヨタカローラ高知株式会社、ネットトヨタ南国株式会社、長崎トヨペット株式会社、神奈川トヨタ自動車株式会社、トヨタL&F近畿株式会社、兵庫ダイハツ販売株式会社、大阪ダイハツ販売株式会社、株式会社シュテルン神戸西、 (順不同・敬称略)

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係
<p>(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針</p> <p>学校は、教育の目的及び教育目標を達成するために、教員の能力向上に努めるものとし、「教員研修規則」を定め、毎年度計画的に教員研修を実施する。</p> <p>研修は、企業等との積極的な連携により①専攻分野における実務に関する知識・技術・技能、②授業力や指導力を修得・向上することを目的として実施し、より実践的な職業教育の質の向上に資するものとする。</p> <p>なお、各々の教員が受講する研修は、教員の業務経験や能力、担当する授業科目や授業以外の担当業務に応じて決定するものとする。</p>
<p>(2) 研修等の実績</p> <p>① 専攻分野における実務に関する研修等</p> <p>研修名「自動車の電子制御技術に関する研修」(連携企業等:ダイハツ工業株式会社) 期間:令和5年8月1日(火) 対象:全教員 内容:自動車の電子制御に関する知識を向上させる</p> <p>研修名「整備主任者研修会」(連携企業等:神戸トヨペット株式会社) 期間:令和5年8月3日(木) 対象:整備主任者 内容:新型車の車両情報、新技術情報、サービス情報について(40系アルファード/ヴェルファイア)</p> <p>研修名「整備主任者研修会」(連携企業等:一般社団法人兵庫県自動車整備振興会) 期間:令和5年10月27日(金) 対象:整備主任者 内容:自動車の特定整備及び特定整備記録簿の記載に関する事項について理解を深める</p>
<p>② 指導力の修得・向上のための研修等</p> <p>研修名「パフォーマーになるための話し方講座」(連携企業等:PST-PRO話し方教室) 期間:令和5年6月22日(木) 対象:全教員 内容:発声・活舌練習、緊張とその対処、人前で話す3つの基本話の型(PREP法)を用いた練習</p> <p>研修名「相手に伝わる話し方講座」(連携企業等:PST-PRO話し方教室) 期間:令和5年6月30日(金) 対象:全教員 内容:ノンバーバル(非言語)を意識する、相手の感情に訴えかける共感させる話し方の実践</p> <p>研修名「教員教養講座」(連携企業等:社団法人兵庫県専修学校各種学校連合会) 期間:令和5年8月1日(火)～4日(金) 対象:全教員 内容:教員の資質・教養向上により、授業力・学生指導力の向上を図る</p> <p>研修名「ハラスメント案件につきなりやすい学生との接し方の理解促進」(連携企業等:公益財団法人 兵庫県人権啓発協会) 期間:令和6年1月9日(火) 対象:全員 内容:「ハラスメント定義の再確認」と「事例紹介」による教員が気をつけるべき学生との接し方の知識修得と注意啓蒙</p>

<p>(3) 研修等の計画</p> <p>① 専攻分野における実務に関する研修等</p> <p>研修名「新型車・新機構研修」(連携企業等:トヨタ自動車株式会社) 期間:令和6年4月22日(月) 対象:全教員 内容:新型クラウンスポーツの車両開発について(CE:清水竜太郎氏による講演)</p>
<p>研修名「トヨタ自動車サービス技術研修」(連携企業等:トヨタ自動車株式会社) 期間:未定 対象:授業担当教員 内容:自動車技術の知識向上、故障診断手法の習得を図る</p>
<p>研修名「整備主任者研修会(法令)」(連携企業等:一般社団法人兵庫県自動車整備振興会) 期間:未定 対象:整備主任選任者 内容:自動車の特定整備及び特定整備記録簿の記載に関する事項についての理解を深める</p>
<p>研修名「整備主任者研修会(技術)」(連携企業等:神戸トヨペット株式会社) 期間:未定 対象:整備主任選任者 内容:新型車に採用されている技術についての理解を深める</p>
<p>研修名「保安基準研修会」(連携企業等:一般社団法人兵庫県自動車整備振興会) 期間:未定 対象:授業担当教員 内容:道路運送車両の保安基準についての理解を深める</p>
<p>② 指導力の修得・向上のための研修等</p> <p>研修名「教員教養講座」(連携企業等:社団法人兵庫県専修学校各種学校連合会) 期間:令和6年8月6日(火)～9日(金) 対象:全教員 内容:教員の資質・教養向上により、授業力・学生指導力の向上を図る</p>
<p>研修名「教員教養講座」(連携企業等:全国自動車大学校・整備専門学校協会) 期間:令和6年8月(3日間) 対象:入社5年以内の教員 内容:教育心理、問題解決手法、コーチング技法、安全運転講習等</p>

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

トヨタ自動車ならびに就職先であるトヨタ販売会社、卒業生評議委員等のステークスホルダーを含む学校関係者評価委員会を設置して、実践的な職業教育を目的とした教育活動や学校運営について、社会のニーズを踏まえた目標設定ならびに、その達成状況や達成に向けた取り組みの適切さについて評価を受ける。さらに結果を公表することで社会への説明責任を果たすとともに、企業等の学校関係者の理解を深め、教育活動への連携・協力を得て学校としての組織的・継続的な改善を図るものとする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	理念・目的・育成人材像
(2) 学校運営	運営方針、事業計画、組織運営、人事・給与制度、意思決定システム、情報システム、目標の設定
(3) 教育活動	教育方法・評価等、成績評価等、資格・免許の取得指導、教員・教員組織
(4) 学修成果	就職率、資格・免許の取得率、卒業生の社会的評価
(5) 学生支援	就職等進路、中途退学への対応、学生相談、学生生活、保護者との連携、卒業生・社会人
(6) 教育環境	施設・設備等、学外実習・インターンシップ等、防災・安全管理
(7) 学生の受入れ募集	学生募集活動、入学選考、学納金
(8) 財務	財務基盤、予算・収支計画、監査、財務情報公開
(9) 法令等の遵守	関係法令・設置基準用の遵守、個人情報保護、学校評価、教育情報の公開
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献、地域貢献、ボランティア活動
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

- ①「二級自動車整備士養成課程でのタイヤ空気充填作業特別教育の受講を検討いただきたい」というご意見を受けて、2023年度より選択制で実施。
- ②「留学生の保護者への情報提供等の対応は検討されていますか」というご意見を受けて、2024年度の保護者会の結果報告をFacebookで配信し、母国でも学校の様子を確認できるよう改善予定。
- ③「学生が個人情報保護法について学ぶカリキュラムはありますか」というご意見を受けて、2024年度カリキュラムから自動車整備専門学校協会が提唱するコンプライアンス教育を取り入れることを計画。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和6年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
小島 満	トヨタ自動車株式会社国内サービス部	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業
王丸 俊介	兵庫トヨタ自動車株式会社働き方変革室	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業
江原 克博	神戸トヨペット株式会社営業本部	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業
原田 忠	トヨタモビリティ新大阪株式会社サービス本部	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業・卒業生
中川 幸士	ネットトヨタ兵庫株式会社サービス営業部	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業・卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)

URL: <https://www.toyota-kobe.ac.jp/about/disclosure/files/5-2.pdf>

公表時期: 令和6年7月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取り組みに関するガイドライン」を踏まえ、以下のことを目的として、教育活動及び学校運営に関する情報を積極的に公開する。

- ①企業等の学校関係者の理解を深め、当校の実践的職業教育活動への連携・協力を得る。
- ②公的な教育機関として、情報公開により社会に対する説明責任を果たし、社会的な理解・評価を促進して教育の質のさらなる向上につなげる。
- ③入学希望者とその保護者に適切な情報を提供し、能力・適性に応じた適切な進路選択に資するものとする。なお、情報公開にあたっては、個人情報の取り扱いに十分留意するものとする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	「学校概要・沿革」、「教育理念」
(2)各学科等の教育	「学科紹介、カリキュラム、設備・教材」、「就職・進路(就職実績)」、「情報公開(授業方法・内容及び年間計画・時間割)(入学生数・在学生数)(学習の成果として取得を目指す資格・検定)」
(3)教職員	「情報公開(教職員数・組織図・教員の専門性)」
(4)キャリア教育・実践的職業教育	「就職・進路(就職支援)」
(5)様々な教育活動・教育環境	「情報公開(学校行事への取り組み状況)」「キャンパス・寮情報(クラブ紹介)」
(6)学生の生活支援	「情報公開(学生の生活支援への取り組み)」
(7)学生納付金・修学支援	「学生募集要項(学生募集要項:入学金・学費等)(奨学金)」
(8)学校の財務	「情報公開(決算書)」
(9)学校評価	「情報公開(自己点検自己評価・学校関係者評価)」
(10)国際連携の状況	「学生募集要項(学生募集要項:外国人留学生の方へ)」
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)

URL: <https://www.toyota-kobe.ac.jp/about/disclosure/>

授業科目等の概要

(工業専門課程 自動車整備科) 令和6年度															
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			学科 エンジンⅠ	エンジン本体、潤滑装置、冷却装置について、役割、構造・作動を理解する。	1前	42	○			○	○			
2	○			学科 電気装置Ⅰ	電気の基礎、電気回路について理解する。バッテリー、灯火装置、始動装置、ドアロック、スマートエントリーについて、役割、構造・作動を理解する。	1前	34	○			○	○			
3	○			学科 シャシⅠ	マニュアルトランスミッション、ステアリング装置、ブレーキ装置について、役割、構造・作動を理解する。	1前	44	○			○	○			
4	○			学科 基礎工学Ⅰ	単位換算、トルク、圧力、速度、加速度、排気量、ギヤ比、バルブタイミング、軸重の計算について理解する。	1前	44	○			○	○			
5	○			実習 エンジンⅠ、Ⅱ	実部品の分解・構造研究・組み付けを通して、エンジン本体、潤滑・冷却の各装置の役割、構造・作動を理解するとともに工具や計測器の使い方を修得する。	1前	98			○	○	○			
6	○			実習 電気装置Ⅰ、Ⅱ	サーキットテストの取扱い、測定方法を修得するとともに電気回路を理解する。バッテリー交換、バルブ交換、ワイパー交換、ベルト交換等のメンテナンス作業を修得する。	1前	101			○	○	○			
7	○			実習 シャシⅠ、Ⅱ	車両の取り扱いを習得する。実部品の分解・構造研究・組み付けを通して、ステアリング装置、ブレーキ装置、トランスミッションの役割、構造・作動を理解する。また、ジャッキ、リフト等の整備機器取扱いを修得する。	1前	100			○	○	○			
8	○			教養 社会人入門Ⅰ	自動車業界や自動車の環境問題等についての基礎知識を修得する。社会人としてのマナー等を修得する。	1前	15		○		○	○			
9	○			学科 エンジンⅡ	EFI、動弁機構、燃料装置、点火装置、吸・排気装置、排ガス浄化装置について、役割、構造・作動を理解する。	1後	31	○			○	○			
10	○			学科 電気装置Ⅱ	半導体、スライドドア、ウインドウレギュレータ、充電装置、ワイパー装置、メーターについて、役割、構造・作動、電気の流れや制御を理解する。	1後	35	○			○	○			
11	○			学科 シャシⅡ	サスペンション、アライメント、ディファレンシャル、プロペラシャフト、ブレーキ装置について、役割、構造・作動を理解する。	1後	30	○			○	○			
12	○			学科 基礎工学Ⅱ	軸重、仕事、仕事率の計算、理論サイクル、油材燃、製図について理解する。	1後	65	○			○	○			

13	○		実習 エンジン Ⅲ、Ⅳ	実部品の分解・構造研究・組み付けを通して、EFI、動弁機構、燃料・点火装置、吸・排気装置、排ガス浄化装置の役割、構造・作動を理解するとともに工具や整備機器の使い方を修得する。 エンジン計測作業を通じ計測技術を習得する。	1 後	124					○	○	○		
14	○		実習 電気装置 Ⅲ、Ⅳ	配線図集の使い方を学び、電気装置の故障原因探究により、各装置の回路、電気の流れ、作動を理解する。 低電圧講習を通じ、ハイブリッド車の取り扱いにおける基礎を習得する。	1 後	124					○	○	○		
15	○		実習 シャシⅢ、 Ⅳ	実部品の分解・構造研究・組み付けを通して、サスペンション、ドライブシャフト、ディファレンシャルの役割、構造・作動を理解する。 ドラムブレーキの分解・組付け作業を習得する。 工作作業を通じ、工作機器の使い方を習得する。	1 後	123					○	○	○		
16	○		教養 社会人入門 Ⅱ	就職活動に備え、自己分析、会社訪問演習、面接演習等を実施する。	1 後	25				○		○	○		
17	○		選択授業	多頻度作業、重整備、オーディオ取付け、工場見学、ボランティア活動など、授業内容を学生が選択することで勉学意欲を高揚させ、各々の知識、技術、教養を高める。	1 後	30		△	△		○	○	△	○	

18	○		学科 エンジン応用 I II、III IV	ディーゼルエンジンの燃焼、構造・作動 半導体回路、外部診断機、EFI、ESA、ISC について理解する。	2 前	27	○		○	○								
19	○		学科 シャシ応用 I II、III IV	大型シャシ、オートマチックトランスミッション、カーナビゲーションについて、役割、構造・作動を理解する。	2 前	34	○		○	○								
20	○		学科 自動車法規 I、II	道路運送車両の保安基準について理解する。	2 前	26	○		○	○								
21	○		学科 自動車工学 I、II	軸重、エンジン回転数と車速、駆動トルクと駆動力の計算について理解する。	2 前	35	○		○	○								
22	○		実習 エンジン応用 I、II、III、IV	予熱装置を修得する。 配線図、スキャンツールの使い方、EFI、ESAについて修得する。 エンジン電子制御に用いられるセンサー特性と制御を修得する。	2 前	129			○	○	○							
23	○		実習 シャシ応用 I、II、III、IV	大型シャシ部品の役割、構造・作動を理解する。オートマチックトランスミッションの役割、構造・作動を理解する。 TSS、ハイブリッド車の整備について理解する。	2 前	122			○	○	○							
24	○		実習 総合 V、VI	1・6か月無料点検、日常点検、12か月定期点検を修得する。	2 前	55			○	○	○							
25	○		教養 インターンシップ	点検整備作業、多頻度作業、お客様対応業務などの実務を経験する。	2 前	35		○		△	○	○	○					
26	○		教養 社会人入門 III	エンジニアのプロとして保有すべき素養や仕事の進め方、サービス工場での業務の流れなどを修得する。	2 前	15		○		○	○							
27	○		学科 エンジン応用 V VI	過給機、排出ガス浄化装置、DPF、尿素SCRシステムについて、EFIの異常時制御について役割、構造・作動を理解する。	2 後	2		○		○	○							
28	○		学科 シャシ応用 V VI	電子制御式AT、ABS・TRC、空調装置、エアコン、エアバッグについて、役割、構造・作動を理解する。	2 後	2		○		○	○							
29	○		学科 自動車検査 I	道路運送車両法について理解する。	2 後	6		○		○	○							
30	○		学科 自動車工学 III	エンジン性能曲線、走行性能曲線、トルクコンバータ性能曲線について理解する。 工学の各計算問題について復習する。	2 後	13		○		○	○							
31	○		学科 総合演習 I	1～2年で学んだ内容を復習する。	2 後	230		○		○	○							
32	○		実習 エンジン応用 V、VI	過給機、排出ガス浄化装置、ディーゼルエンジンのトラブルシューティングについて理解する。 CAN、EFIの異常時制御を修得する。	2 後	62			○	○	○							
33	○		実習 シャシ応用 V、VI	パワーステアリング、エアバッグ、空調装置の役割、構造・作動を理解する。 アライメントの点検・調整作業を修得する。	2 後	59			○	○	○							

34	○	実習 総合Ⅶ	車検点検整備機器の取り扱いおよび24か月定期点検を修得する。	2 後	31			○	○	○		
35	○	教養 社会人入門 Ⅳ	インターンシップの振り返りとお客様対応業務やサービス業務システムの使い方、保証制度などを修得する。	2 後	28		○		○	○		
36	○	実習 総合演習Ⅰ	多頻度作業を復習・修得する。	2 後	92			○	○	○		
37	○	教養 総合復習Ⅱ	二級国家試験に出題される各装置について過去問題を解答しながら総復習する。	2 後	92	○			○	○		
合計				54科目		2160単位時間(単位)						

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	2期
◆進級 各年次毎に、定められた全科目の修得試験に合格しており、各年次における補講を含めない正規授業への出席率は、80%以上であること ◆卒業 2年次の修了が認められ、学科・実習それぞれ補講を含めた出席時間数が一種自動車整備士養成施設指定基準の定めによる教育時間数を満足していること	1学期の授業期間	20週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。